

「近江風土記の丘」の史跡

大中の湖南遺跡

今から約2000年前に営まれた農耕集落の跡の全様が見つかっています。貝塚・住居や水田の跡を始め、鋤や鍬などの多彩な木製農耕具、更にそれをつくるための石器などが出土しています。また近年には、古代の港の跡(写真下)が発見されています。



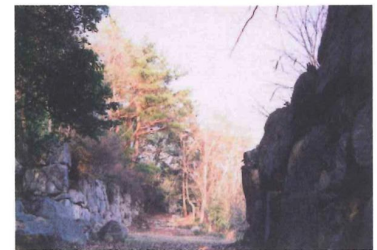
大中の湖南遺跡(上)
瓢箪山古墳(下)

安土城跡

織田信長が天正4(1576)年から約3年をかけて安土山につくった城です。家臣の屋敷や御殿など多くの郭・建物が全山に広がり、地上6階・地下1階・5層の大天主があったとされますが、本能寺の変の後に焼失し、現在は残っていません。



(上)安土城跡
(下)観音寺城跡



瓢箪山古墳

全長162m、後円部の直径77m、高さ13m。4世紀につくられた、滋賀県内最古の前方後円墳の一つで、その規模は最大を誇ります。後円部の中央の長大な竪穴式石室からは、鏡・武器・装身具などの豊富な副葬品が見つっています。

観音寺城跡

観音寺城は近江の守護であった六角氏(佐々木氏)の居城であり、14世紀から15世紀にかけて築かれたと考えられます。城は観音寺山の南斜面一帯に大規模に広がり、当時の山城としては珍しく、石垣も備えていました。六角氏は永禄11(1568)年、織田信長に敗れています。